

受賞報告

受賞報告 The Rolf Wideröe Prize, 黒川眞一氏

生出 勝宣

この度黒川眞一 KEK 名誉教授が、2011 年のヨーロッパ物理学会加速器分科会 (EPS-AG) の Rolf Wideröe 賞を受賞されました。

ご存知のように、Rolf Wideröe はノルウェー出身の加速器科学のパイオニアで、1930 年代にベータトロンや「共鳴型加速器」を発明しましたが、彼の名を冠した本賞は、加速器物理学の分野において世界的に卓越した業績を達成した方に授与されるものです。これまでの受賞者は、I. Syratchev (INP Protovino, 1994), R.D. Kohaupt and the DESY Feedback Group (DESY, 1996), C. Benvenuti (CERN, 1998), E. Keil (CERN, 2000), K. Hübner (CERN, 2002), I. Meshkov (JINR, 2004), V. Teplyakov (IHEP-Protvino, 2006), A. Chao (SLAC, 2008) という錚錚たる方々です (ちなみに Rolf Wideröe の名を冠するのは 2008 年以降で、それ以前はヨーロッパ加速器賞)。

今回の黒川氏の受賞理由は、まず、KEK-PS, TRISTAN, KEKB などいくつもの高エネルギー加速器の設計・建設・運転・性能向上において、卓越した指導力を発揮されたことが挙げられています。それに加えて、黒川氏は物理学教育の熱心な推進者として、

特に極東地域における加速器科学の発展と、この分野におけるアジア・ヨーロッパ・米国間の国際協力の推進において、重要な役割を果たされてきた事が評価されています。

実際、黒川氏は KEK-PS のビームチャンネルや TRISTAN において、大規模な加速器の統一的な計算機制御という、現在では誰もが当然のこととしていることを、国内で最初に導入・開発されました。KEKB においても、与えられた期間内での建設完了・運転開始のみならず、ソレノイドコイルによる電子雲の抑制など、世界最高ルミノシティの実現においても強力な指導力を発揮されました。もちろん、世界加速器会議 IPAC の創始や ILC-SC 議長など、加速器分野の国際協力の発展において黒川氏が果たされた役割は言うまでもありません。

以上のことから、黒川氏の業績はこの賞の趣旨に完全に合致するもので、いわば当然の受賞であると申せましょう。

なお、授賞式・講演は 9 月 8 日に、IPAC 2011 会議 (サンセバスティアン, スペイン) において行われました。



ヨーロッパ物理学会・加速器グループから Gersh Budker 賞ならびに Rolf Wideröe 賞を贈られ、IPAC11 会場で記念講演をする両氏 (左 矢野氏, 右 黒川氏)